

令和五年度 垣生中俳句会 二月入賞作品

金賞

バレнтаインとうに期待などしてなくて 三年

口語調でキャッチー、分かりやすく作者の気持ちが伝わってきます。多くの先生方の票を獲得しました。肩に力の入らないさらっとした詠み方に好感が持てます。そうして、中三男子らしい本音とも強がりともつかぬ独白に、くすつとしてしまうのは選者だけでしょいか。



銀賞

朝決める服の重ね着春浅し

二年

春浅い時期は三寒四温、寒かったり暖かかったりを繰り返しながら徐々に春本番に近づきます。そのため、どの程度重ね着したものか、朝は悩みどころです。そんな内容に共感が集まりました。春浅しという季語を最後にもってきて、読む者の納得感で、すっとん決着させる技が巧みです。



銀賞

乾風 (あなじ) かな中学卒業句わせる

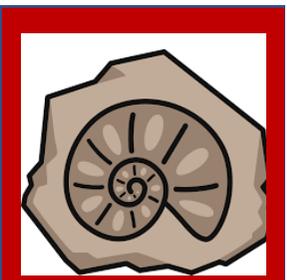
三年

乾風という珍しい季語に挑戦したことをまず褒めたいです。乾いた北西の季節風で、大荒れの原因ともなる風です。ただこれは冬の季語です。冬の季節風が終わり、早春に吹く東寄りの風を「東風 (こち)」といいます。菅原道真の和歌に「東風吹かばにおひおこせよ梅の花 (あるじ) 主なしとて春な忘れそ」というのがあります。「東風」を使った早春の句にもチャレンジしてみてください。

銅賞 花冷えや外の寒さは無愛想

一年

寒さを「無愛想」と擬人化した表現が光ります。季語の花冷えは、桜の咲くころ、急に冷え込むことを表しているのです。実際は遅い春の時期の句となります。かなり暖かくなったのに急に寒くなったことを無愛想と表現したのでしょうか。初句に切れ字を置き、最後を体言止めにして、きりつとした句に仕上げました。



銅賞 ノジュールを探しに出かける冬の山 二年

ノジュールは、鉱物学の専門用語で硬くて丸い石球のことだそうです。球の中心にアンモナイトや三葉虫などの化石が入っていることがあるらしく、作者の博識が伺えます。ノジュールという音の響きも新鮮で、注目集める句となりました。

銅賞 二月早トーストを手に社説読む

三年

二月早、春とはいえ、実際には一段と寒気の厳しい頃を表す季語です。まさに今の時節の季語。慌ただしく、朝食もそこそこに登校する中学生の姿を想像していた選者としては、この余裕ある朝の風景にびっくり、しかも新聞の社説を読む中学生。格好いい。

入選

朝散歩ふと立ち止まって春探す	一年
試合へと弟挑む春一番	一年
雨上がり休み時間の春の虹	一年
微睡(まどろ)んで鼻をくすぐる春の風	二年
天日干し少し小さい春コート	二年
ホール内響く音色に春めいて	二年
祖母の墓小さなつぼみ春の風	二年
春めいて自転車走らせ浜辺まで	二年
バレンタインしよっぱい恋と甘いチョコ	三年
二回目の面接練習春浅し	三年
赤椿心安らぐ塾帰り	三年
春寒や指先凍る自習室	三年
待ちわびてふわっと薫る梅の花	三年
針刻む視界と思考冴え返る	三

